

JAEA-Technology 2010-039  
排気中放射性ヨウ素のモニタリング手法の  
検証（再評価）と高度化への提言

List of errata

正誤表

	Error	Correct
p.2	<p><b>2.2 放射能測定及び放出量評価法</b></p> <p>(1) 放射能測定</p> <p>1週間にわたる排気筒空気のバッチサンプリング後に、CP-20 及び CHC-50 を回収し、それぞれ <u>Ge(Li)半導体検出器</u> (以下、「Ge 検出器」という。) を用いたγ線スペクトロメトリーによる放射性ヨウ素の放射能測定を行っている。</p>	<p><b>2.2 放射能測定及び放出量評価法</b></p> <p>(1) 放射能測定</p> <p>1週間にわたる排気筒空気のバッチサンプリング後に、CP-20 及び CHC-50 を回収し、それぞれ <u>Ge 半導体検出器</u> (以下、「Ge 検出器」という。) を用いたγ線スペクトロメトリーによる放射性ヨウ素の放射能測定を行っている。</p>
p.16	<p>ただし、Ge 検出器を用いたシステムでは、ヨウ素捕集部は CHC-50 のみとした。Ge 検出器では、<sup>129</sup>I からのエネルギー29.8 keV の <u>γ線</u> を測定するために、約 27.8～31.8 keV のエネルギー領域を設定した。</p>	<p>ただし、Ge 検出器を用いたシステムでは、ヨウ素捕集部は CHC-50 のみとした。Ge 検出器では、<sup>129</sup>I からのエネルギー29.8 keV の <u>X線</u> を測定するために、約 27.8～31.8 keV のエネルギー領域を設定した。</p>